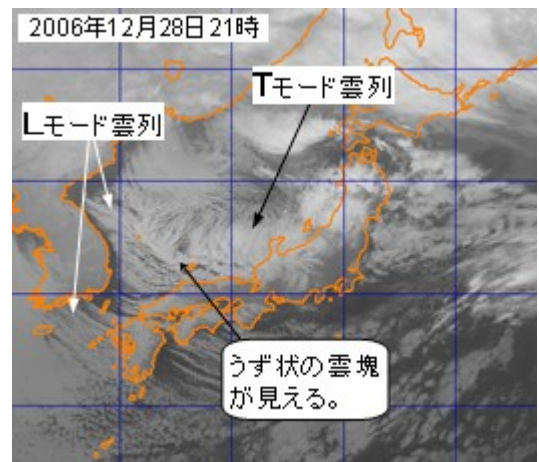
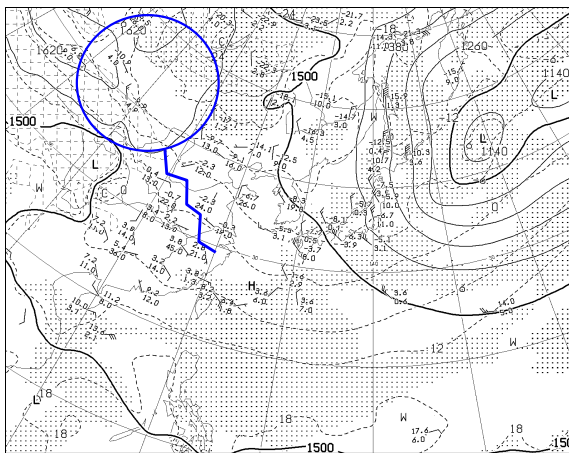


以下の頁・項目に誤りがありました。訂正して詫び申し上げます。 著者 入田 央

- P13 下図表題 緯度の違いによる太陽放射エネルギーの末尾に(冬季の状態)を追加。  
P14 下段2行目 誤)地球放射地 正)地球放射  
P16 下図 地球をとり巻く大気層と地球の諸元図は 30km 層が省略してあります。  
P17 下図中 誤)  $15/6400 \div 0.002$  正)  $15/6400 \approx 0.002$   
P17 上図 誤)テレビ・ラジオの波長 正)テレビ(地上波)・ラジオの波長  
P23 上図 誤)豊田アメダス地点の気圧の通過・・・ 正)豊田アメダス地点の低気圧の通過・・・  
P39 上図 誤)雨粒・雪結晶:  $1000 \sim 2000 \mu\text{m}$  (0.1~2mm)  
正)雨粒・雪結晶: 半径  $100 \sim 2000 \mu\text{m}$  (0.1~2mm)  
P43 図中 雨滴の半径は一例として 0.2mm 以上を示しています。  
P43 誤)  $0^\circ\text{C}$ 層が雲内にない暖かい層で雨粒を大きくするために雨滴の衝突併合の過程をとる。  
正)  $0^\circ\text{C}$ 層より上空へあまり発達しない雲内(暖かい層)の雨粒の成長は衝突併合過程による。  
P55 静力学平衡の式の「 $\rho$ 」は乾燥空気密度、「 $Z$ 」は高度(上空が正(+))  
P75 850hPa P77 左図



- P87 誤)  $V, u$  正)  $V$ :風の南北成分,  $U$ :風の東西成分  
P95 誤)FAX 正)500hPa 高度・渦度解析図(予想図)  
P101 中段図 温暖前線面下部の層積雲( $A_s$ )を削除。温暖前線面上部の高層雲( $A_c$ )を削除して、その位置に高層雲( $A_s$ )を移動。寒冷前線面上部の「高積雲」を削除。  
P107 誤)  $\Delta n: 240\text{km} = 240 \times 10^3\text{m}$  正)  $\Delta n: 240\text{km} = 240 \times 10^3\text{m}$   
P107 中段 温度移流量を求める枠内の式の最下段「 $3\text{hr}: 3 \times \dots$ 」を削除。  
P107 誤)  $TA = -(V \cdot \Delta T \dots)$  正)  $TA = -(V_n \cdot \Delta T \dots)$   
P109 中段左図のX軸左に右と同じ大きさの下向き矢印を追加。

- P111 上図 誤) Ci(巻層雲) 正) Ci(巻雲)
- P117 誤) 衛生 正) 衛星
- P123 下図 左側の太破線は「相当温位の集中帯」
- P124 下段4行目 誤)  $\alpha$  は海上で 30 度、陸上で 40 度・・・正)  $\alpha$  は海上で 35 度、陸上で 45 度・・・
- P125 左下 囲みの中 誤) 海上 30°、陸上 40° 正) 海上 35°、陸上 45°
- 地上風速の推定  $V_s = \dots \approx 7 \times \Delta p \text{ (m/s)}$  : 海上  
同上  $\dots \approx 6 \times \Delta p \text{ (m/s)}$  : 陸上
- P131 誤) メソのスケール～1000km 正) メソ  $\alpha$  スケール～1000km
- P133 中段の図説 誤)・・・ドライスロットを観測 正) 気象衛星で観測されたドライスロットの縁辺部に発生したエコークラスター
- P148、149 「1.5km以下の層」は、P149 の中段の図で眼の壁雲の「収束」と記された雲底付近から暖かい海面まで。
- P157 索引 誤) 惑星過度 正) 惑星渦度